

福井工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	機械工学実験Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0136			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験			単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	機械工学科			対象学年	5		
開設期	通年			週時間数	3		
教科書/教材	機械工学実験Ⅱテキスト						
担当教員	芳賀 正和,安丸 尚樹,田中 嘉津彦,藤田 克志,千徳 英介,金田 直人,亀山 建太郎,村中 貴幸,五味 伸之,丸山 晃生,丸山 晃生						
到達目標							
(1)実験テーマを理解し、実験装置を安全に操作して実験データを収集・解析でき、実験に関する課題（問題点等）を発見し解決法を提案できること。 (2)実験課題の工学的背景および周辺情報を網羅し、機械工学分野での一般的な作成方法に従った報告書を提出期限までに作成できること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
実験テーマの理解と実施	各実験テーマに関する基礎知識および目的を十分に理解し、実験を主体的に実施することができる。			各実験テーマに関する基礎知識および目的を理解し、実験を実施することができる。		各実験テーマに関する基礎知識および目的を理解しておらず、実験を実施することができない。	
実験レポートの提出	実験レポートの作成法を十分に習得し、発展的なデータの収集解析および考察検討ができる。			実験レポートの作成法を習得し、データの収集解析および考察検討ができる。		実験レポートの作成法を習得しておらず、データの収集解析および考察検討ができない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 RE1 JABEE JB3 JABEE JE1							
教育方法等							
概要	機械工学、電気工学の基礎に関する諸テーマについて安全に実験を実施して考察を行い、実験の計画および方法、現象の的確な把握、実験データの処理、現象の解析方法、実験報告書の書き方を修得する。						
授業の進め方・方法	5～6人程度の7班に分かれ、各テーマ（全部で12テーマ）について2週毎にローテーションにより実験を行い報告書を提出する。なお、シラバスの説明時には実験全体の安全教育を行うが、各テーマの実験の最初にも必要に応じて実験上の安全に関する基礎的な知識や技術を解説する。						
注意点	学習・教育目標：本科（準学士課程）：RE1(◎)環境生産システム工学プログラム：JB3(◎)、JE1(◎) 関連科目：機械工学実験I(本科4年)、生産システム工学実験I,Ⅱ(専攻科1年) 評価方法：学習・教育目標（RE1）の達成および科目取得の評価方法： 実験テーマ毎に、次に示す配点で評価する。 実験テーマを理解して実験を実施することに関して40%、レポートの評価を60%とする。 レポートの評価は100点満点として行うが、レポート（報告書）の提出が期限日を越え2週間以内の提出は65点満点、2週を超え4週間以内の提出は32点満点とし、4週を超えた場合はレポート（報告書）を受け取らない。レポート評価の内訳は、報告書の基本的書き方を20%、実験データの収集解析を40%、考察検討を40%とする。 総合評価は、各実験テーマの評価の平均とする。なお、60点未満の実験テーマ数が0の場合に3点を、同実験テーマ数が1の場合2点を、同実験テーマ数が2の場合は1点を加点することもある。 実験レポートは次の実験日まで提出することを原則とし、実施済実験テーマのうち、レポート未提出が3つ以上ある場合には、次の実験は受けられない。 評価基準：学習・教育目標（E1）の達成および科目取得の評価基準：全テーマの平均点数が60点以上。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		シラバス、安全教育を理解できる。		
		2週	電顕 1		走査電子顕微鏡による破面解析 1 を説明できる。		
		3週	電顕 2		走査電子顕微鏡による破面解析 2 を説明できる。		
		4週	自由振動 1		減衰自由振動 1 を説明できる。		
		5週	自由振動 2		減衰自由振動 2 を説明できる。		
		6週	ナックルボール 1		ナックルボールの軌跡の数値シミュレーション 1 を説明できる。		
		7週	ナックルボール 2		ナックルボールの軌跡の数値シミュレーション 2 を説明できる。		
		8週	中間確認		中間まとめ（データ整理）を行う。		
	2ndQ	9週	シーケンスⅡ 1		PLCを用いたシーケンス制御 1 を説明できる。		
		10週	シーケンスⅡ 2		PLCを用いたシーケンス制御 2 を説明できる。		
		11週	歯車 1		歯車の測定 1 を説明できる。		
		12週	歯車 2		歯車の測定 2 を説明できる。		
		13週	カム 1		カム及びピストン・クランク機構の特性実験 1 を説明できる。		
		14週	カム 2		カム及びピストン・クランク機構の特性実験 2 を説明できる。		
		15週	技術者倫理		技術者倫理を説明できる。		
		16週					
後期	3rdQ	1週	システムズモデリング 1		システムズモデリング 1 を説明できる。		
		2週	システムズモデリング 2		システムズモデリング 2 を説明できる		
		3週	曲げ試験 1		板材の曲げ試験 1 を説明できる。		
		4週	曲げ試験 2		板材の曲げ試験 2 を説明できる。		
		5週	制御シミュレーション 1		剛体アームの制御シミュレーション 1 を説明できる。		
		6週	制御シミュレーション 2		剛体アームの制御シミュレーション 2 を説明できる。		
		7週	浮力対流 1		液体内に発生する浮力対流の数値解析 1 を説明できる。		

	4thQ	8週	中間確認	中間まとめ（データ整理）を行う。
		9週	浮力対流 2	液体内に発生する浮力対流の数値解析 2 を説明できる。
		10週	強制振動 1	1 自由度線形系の振動実験 1 を説明できる。
		11週	強制振動 2	1 自由度線形系の振動実験 2 を説明できる。
		12週	論理回路 1	□ジックトレーナによる論理回路の実験 1 を説明できる。
		13週	論理回路 2	□ジックトレーナによる論理回路の実験 2 を説明できる。
		14週	キャリア活動	キャリア活動を行う。
		15週	まとめ	最終まとめ（データ整理等）を行う。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	物理、化学、情報、工学における基礎的な原理や現象を明らかにするための実験手法、実験手順について説明できる。	4	
			実験装置や測定器の操作、及び実験器具・試薬・材料の正しい取扱を身に付け、安全に実験できる。	4	
			実験データの分析、誤差解析、有効桁数の評価、整理の仕方、考察の論理性に配慮して実践できる。	4	
			実験テーマの目的に沿って実験・測定結果の妥当性など実験データについて論理的な考察ができる。	4	
			実験ノートや実験レポートの記載方法に沿ってレポート作成を実践できる。	4	
		技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	3	
			現代社会の具体的な諸問題を題材に、自ら専門とする工学分野に関連させ、技術者倫理観に基づいて、取るべきふさわしい行動を説明できる。	3	
			技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。	3	
			社会における技術者の役割と責任を説明できる。	3	
			高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを説明できる。	3	
			環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。	3	
			環境問題を考慮して、技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	
			過疎化、少子化など地方が抱える問題について認識し、地域社会に貢献するために科学技術が果たせる役割について説明できる。	3	
			知的財産の獲得などで必要な新規アイデアを生み出す技法などについて説明できる。	3	
			全ての人が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。	3	
			技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	3	
専門的能力	分野別の工学実験・実習能力	機械系分野【実験・実習能力】	機械系【実験実習】		
			実験・実習の目標と心構えを理解し、実践できる。	4	
			災害防止と安全確保のためにすべきことを理解し、実践できる。	4	
			レポートの作成の仕方を理解し、実践できる。	4	
			加工学実験、機械力学実験、材料学実験、材料力学実験、熱力学実験、流体力学実験、制御工学実験などを行い、実験の準備、実験装置の操作、実験結果の整理と考察ができる。	4	
			実験の内容をレポートにまとめることができ、口頭でも説明できる。	4	

評価割合

	レポート	実験実施	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	60	40	100
分野横断的能力	0	0	0